



厚別区シンボルマーク

報 あつべつ

2009年6月号

	5月1日現在 ()は前月比
厚別区の人	口 129,233人 (+85)
人口・世帯数	男 59,756人 (-9)
	女 69,477人 (+94)
	世帯数 54,941世帯 (+162)

厚別区総務企画課広聴係
 〒004-8612
 厚別区厚別中央1条5丁目
 TEL 895-2400 内線224~226
 FAX 895-2403

厚別区民のページ

記憶の古里あつべつを描き継ぐ



厚別人

書／映画監督 菅原浩志

結婚して北区に移り住むまでは厚別区の小野幌で生まれ育った坂田さん。四年前、約五十年ぶりに生家の跡地を訪れ、当時は田畑やささやぶだった周囲が住宅地に変わり、少し寂しく感じたそうです。

その後、絵画の講座へ通うようになり、「当時の様子を知らない孫に見てもらいたいな」と考え、小野幌の思い出の風景を題材に描き始めました。

思いを描く

昭和十年ころから終戦までの小野幌の風景や生活を描いた絵は、現在スケッチブック四冊ほど(約八十枚)にもなりました。「あの風景は二度と見られない、覚

えているうちに絵に残しておきたいと思った途端、どんどん筆がすすみました」と振り返ります。

思いをかたちに

画集『追憶の里』の出版は、当時の様子を描いていることを知った同級生に写しが欲しいと言われたことがきっかけでした。カラーコピーでは原画の色が再現できず、講師に相談したところ、画集の発行を勧められたのです。

画集には、描きためた中から約五十枚を選び、それぞれに説明文を付けました。「講師の小幡先生や仲間などの協力があって完成した画集です。また、母校小野幌小学校に寄贈したところ、

百十周年記念式典でスライド上映もしていただき、良い思い出になりました」と照れくさそうに話します。

受け継がれるもの

坂田さんの記憶から呼び覚まされた小野幌の風景。貴重な作品として、次の世代へ受け継がれていきます。

昭和初期の小野幌の風景を描いた

坂田 奈己

Profile (プロフィール)

さかた・なみ
 3年前から札幌道新文化センターの「大人の絵描き教室」を受講。昭和初期の小野幌の風景を描き、平成20年7月に画集『追憶の里』を出版。北区在住。76歳。

